参加者は活動の成果である美しい農地を実際に体感し、活発な質疑応答などにより地域への理解を深めました。

ー花輪の市日ー

ー花輪大堰（頭首工）ー

ー渡部家資料館ー

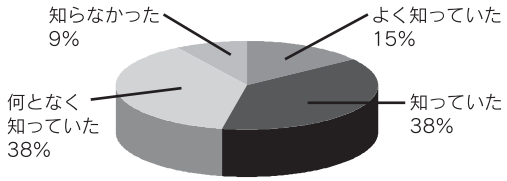
ー地産地消弁当ー

ー花輪ばやしー

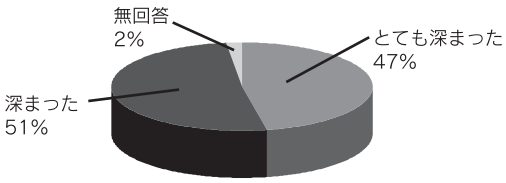
ー水沢盆踊り太鼓ー

アンケート結果（一部抜粋）

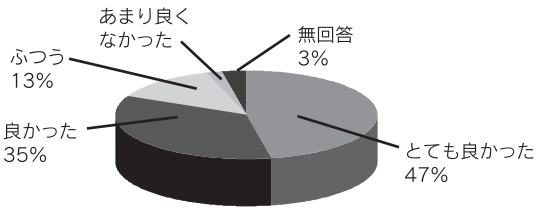
■農山村地域の現状、問題点についてご存知でしたか？



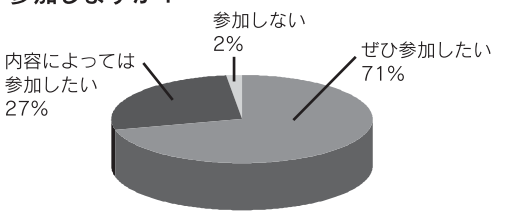
■今回の現地見学会に参加し、農山村地域への関心が深まりましたか？



■見学地の内容はどうでしたか？



■来年度もこのような現地見学会があった場合、参加しますか？



●農山村地域の現状、問題点についてよく知っていた・知っていた方は約半数でしたが、現地見学会への参加により９割以上の方が農山村地域への関心が深まったと回答。

●現地見学会の内容には、８割以上の方が良かったと回答しており、来年度もぜひ参加したいという方は７割という結果となりました。

現地見学会の詳細は、こちらのホームページをご覧ください。

秋田県農林水産部農山村振興課
http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1315986013386/index.html

平成23年度
換地委員等実務研修会

８月22日（月）、秋田市の「秋田県ゆとり生活創造センター・遊学舎」を会場に、本会主催による「平成23年度換地委員等実務研修会」が開催され、県内で換地業務に携わる県機関、市町村、土地改良区等の関係者約180名が参加した。

研修会は、「換地に関する基礎調査、換地設計基準の作成、換地設定に関する基礎的知識の習得及び留意点の把握に努め、換地業務の円滑な推進に資する。」ことを目的に、事業実施中の地区若しくは今後予定地区の関係者を対象に、毎年度実施している。

本年度は、本会黒子専務理事の開講挨拶に始まり、県農林水産部農地整備課土地改良指導班の菅原副主幹による「換地の基礎知識と換地委員の役割について」、同課農地整備班の石川副主幹による「面的集積促進費の扱いについて」、本会南事務所の高橋次長による「換地設計基準及び換地設定について」の講義に続き、平鹿町土地改良区後藤事務局長による「平鹿高野地区における換地委員として取り組んだ結果について」と題した事例発表などが行われた。

その後の「質疑応答」、「アンケート」では、様々な意見・要望が出され、今後の県内における換地事業の推進や本会換地業務等に反映させて行きたいと考えている。

平成23年度 北海道・東北ブロック
換地関係異議紛争処理対策検討会

８月30、31日の両日、秋田市の「ホテルメトロポリタン秋田」において、「平成23年度北海道・東北ブロック換地関係異議紛争処理対策検討会」が開催された。

同検討会は、「都道府県、市町村、土地改良区等の換地関係職員に対して換地関係異議紛争処理に関する研鑽を図ることにより、今後の換地業務の円滑かつ着実な推進を図る」ことを目的に、全国水土里ネット（中央換地センター）の主催により行われているもので、北海道・東北ブロックでは、各道県の持ち回りにより開催されている。

検討会では、各道県から提出された「未然防止事例」個々について、出席者間で熱心な事由討論を行った後、農林水産省、東北農政局の担当者から、各地の事例を交えながらご指導を頂いた。

地域の　ちょっと“いい話”

震災ボランティア

～地域の仲間で参加した震災ボランティア～

水土里レポーター　牧野　一
（琴丘土地改良区事務局長）

私の住む山本郡三種町（旧琴丘町）深浜集落は、稲作中心の平地農村地域です。

集落の50～60代有志13名で構成する「深浜21世紀会」は結成して33年となり、毎月１回、各会員宅において鍋を囲んで飲みながら情報交換し、親睦を深めております。

３月11日の東日本大震災に対して、会でわずかながらの義援金を寄付しておりますが、その後、会合での話題は震災復興と原発事故となりました。会員の中に、別団体を通じて現地ボランティア活動に参加した人がいたため、その話を聞くうちに、我が会でもボランティア活動に参加できないかという話になり、都合の付く６名が参加することとなりました。

９月16日朝４時30分に個人のワゴン車で出発し、北上市災害ボランティアセンターでの受付後、市が用意した貸切バスに乗り換え、大船渡市災害ボランティアセンターに到着しました。そこには他の地域から集まってきた多数の人々がいて、市内の被災各地への振り分けが行われました。我々もここで初めて行先を指示され、市中心部から10kmほど北部に位置する旧三陸町崎浜地区に向かうことになりました。

現地に到着したのは午前10時になっていました。崎浜地区は、津波により集落200戸の内42戸が流失し、死者・行方不明者10名の甚大な被害を受けたそうです。

我々の作業は集落中心部道路側溝の清掃で、側溝内は流された住宅のがれきや、上流沢部からの大小入り混じった石、土砂等に埋め尽くされ、惨たんたる状態でした。現場には重機がなく、埋っているものを手作業で１つ１つ片づける作業です。我々を含めた16人がこの作業にあたりましたが、午前中２時間で片付けた延長は、約20mがやっとでした。

当日は気温31℃真夏日の条件下であったため、水分補給と休憩をこまめに取るようにとの指示がありましたが、個別休憩はなかなか取りづらく、我々の体力も限界に近づいていた午後２時過ぎ、センターの係員から作業終了の指示が出されました。予定より１時間早い終了でしたが、おそらく熱中症の危険を察知したうえでの措置だったと思われます。気が付けば集めた土砂類は、トンパック６個にも達していました。

その後帰途につき、集落に帰り着いたのは午後７時30分、一同疲労こんぱいの状態でありましたが、打ち上げのビールで乾杯し労をねぎらい解散しました。

初めての災害ボランティアを通じ、その大変さと充実感を体験できたことは生涯忘れられないものとなる気がします。

その後開かれた「深浜21世紀会」では、参加できなかった人へ写真を基に内容を報告し、年内中に集落有志にも呼びかけ、再度、ボランティア活動を行うことを決定しました。

今回の大震災では、多くの人が「何かしなければ」を思い、「何をできるか」を考えさせられたと思います。我々の活動は、被災地復興のほんの一部の手助けにしかならないと思いますが、「何をできるかを」考えている方々への一助になればと、寄稿させて頂いた次第です。

特集
地域からの
情報発信

美郷町水環境マイスター養成講座 ～森と水のお話し～

仙北支部水土里レポーター　藤岡　義博
（秋田県七滝土地改良区事務長）

美郷町では、平成21年度から、「地域の水環境保全活動のプロとなる人材を育成する」ための事業として、「水環境マイスター養成講座」を実施しており、今年で３年目となります。

平成23年９月17日（土）、他町の水環境を学ぶという事で、にかほ市象潟の「獅子ケ鼻湿原“出壺”」で第3回目の講座が開催されました。今回は、あいにくの雨にもかかわらず、にかほ市観光案内人協会の相馬氏の案内のもと、14名の受講生が参加しました。

▲受講生集合写真

▲あがり子大王

湿原内の水温は、常に７℃という冷たさであり、森の中にぽっかりと空いた水辺はオアシスのような佇まいを見せていました。湧水の周辺には「鳥海マリモ」や希少な生物が生息し、手つかずの自然を残す湿原帯として国の天然記念物に指定されております。

また、「出壺（湧水地）」を地元では「クマの水飲み場」と俗称しており、酸性が強いことからクマをはじめ山の動物たちの病気予防や治療に利用しているという風説があるそうです。

出壺から湧き出た水は約16ヘクタールの湿原を形成し、その落水は白雪川に合流して山麓の平野を潤しますが、稲作には冷たすぎるので、湿原から平野に至るあちこちに温水路が設けられていました。

その他にも、幹回り7.26メートルある日本一の奇形ブナ「あがりこ大王」などがあり、湿原の自然のすばらしさに感激しました。

▲クマの水飲み場

▲鳥海マリモ

終わりに、「水」は生命の源であります。地上に生息する全ての生物に欠かすことのできない「水」、出壺から湧き出ている「水」、湿原を流れている「水」、それは農業生産だけの「水」ではなく我々の日常を支える重要な資源であります。私たちは、水環境のプロとして財産『森と水』を永久に後世に残すべく、その機能の維持と管理育成に努め、次代へ引き継いで行かなければならないと考えております。